

学 位 論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

1. 申請者氏名	萩野 奈幹
2. 審査委員	主 査：（岐阜大学教授） 柳沼 良太 副主査：（岐阜大学教授） 平澤 紀子 委 員：（兵庫教育大学教授） 松本 剛 委 員：（岐阜大学教授） 吉澤 寛之 委 員：（岐阜大学准教授） 内海 志典
3. 論文題目	道德教育における問題解決学習の在り方に関する研究 ―デューイ教育哲学を基底にして―
4. 審査結果の要旨	先端課題実践開発専攻 先端課題実践開発連合講座 萩野奈幹から申請のあった学位論文について、兵庫教育大学学位規則第16条に基づき、下記のとおり審査を行った。 論文審査日時：令和6年2月3日（土） 16時40分～17時20分 場 所：オンライン 1. 学位論文の構成と概要 本研究の目的は、ジョン・デューイの教育哲学を基底にして道德教育における問題解決学習の指導法と評価の在り方を解明すると共に、学校の教育活動全体で行う道德教育の在り方を他の教科・領域と関連づけて明らかにすることにある。特に道德科において子どもが道德的問題を主体的に考え協働的に議論する問題解決学習の理論的構造を解明し、実際にその道德授業を実践し、その効果を詳細に検討している。 第1章の「道德科授業における問題解決学習の理論」では、デューイ教育哲学の経験論や思考論に基づいて道德教育とその問題解決学習の理論的根拠を提示した。まず、デューイ教育哲学におけるコミュニケーションの教育的機能について吟味した。次に、デューイの道德教育論が従来の二元論をいかに克服したかについて究明した。最後に、デューイ教育哲学に基づく道德科の問題解決的な学習を再構成し、具体的な道德科の学習指導過程を提示した。 第2章の「道德科における問題解決学習の指導法の開発と実践」では、現在の我が国の道德科における問題解決的な学習の諸課題を指摘し、それを克服するためにデューイ教育哲学に基づく道德教育論と問題解決学習の特質を明らかにした。まず、デューイの考える道德的成長と民主主義の関係性を検討し、道德教育の方向性や判断基準を探り出した。次に、デューイの問題解決学習における子どもの知性と感情の働き、および能動性と受動性の関係について明らかにした。以上の改善点を生かした道德科の問題解決学習を開発し、その授業実践例を提示して検討した。 第3章の「道德教育における問題解決学習の評価」では、デューイ教育哲学に基づく道德科における問題解決学習の評価の在り方について検討した。まず、「真正の評価」論を理論的基盤とするポートフォリオ評価法を取り上げ、デューイ教育哲学に関連づけて子ども自身が学びを振り返るポートフォリオ検討会について考察した。次に、道德授業でのポートフォリオ評価の特質と課題を整理し、一枚ポートフォリオ評価法において「振り返り」を行いやすい仕組みを開発した。最後に、短期・長期的な評価の在り方について初等教育で開発実践を行い、ポートフォリオ評価を生かした検討会の実践例を提示した。

第4章の「特別活動における道德教育に関する授業実践」では、デューイ教育哲学から影響を受けた市民性教育のためのピースフルスクールプログラム（PSP）を取り上げ、特別活動と道德教育を関連づけた教育実践の在り方を検討した。まず、PSPの理論について概説した上で、民主主義社会の創造を目指すデューイ教育哲学と関連づけて考察し、特別活動における効果的な道德教育の在り方とその授業実践を具体的に示した。

第5章の「音楽を活かした道德性の育成に関する一考察」では、デューイ教育哲学から影響を受けたジェームス・L・マーセルの音楽教育論を取り上げ、音楽による感情経験を重視した道德性の育成方法の在り方を検討した。デューイとマーセルの教育哲学を比較考察して、道德科と音楽科の協働した総合的かつ相互補完的な道德教育の在り方を検討した。

本研究の成果としては、デューイの教育哲学に基づく道德科の問題解決学習の在り方や授業実践を解明すると共に、学校の教育活動全体と関連づけて総合的な道德教育プログラムを開発・実践したところにある。特に民主主義社会の創造に向けた道德教育の多様なアプローチの開発実践は学術的意義が高いと判断できる。

2. 審査経過

本論文の研究内容について独創性や発展性、学校教育の実践への貢献などについて審査を行った。まず、本論文の独創性としては、デューイの教育哲学に基づく道德科の問題解決学習の指導法について理論的に解明したところにある。また、デューイの教育哲学に基づいて民主主義社会の創造に向けた道德教育方法を開発した点、道德科の問題解決学習におけるポートフォリオ評価を開発した点である。日本ではこうした道德科の問題解決学習の指導と評価が十分検討されていない点でその独創性が評価された。

次に、本論文の発展性としては、デューイの教育哲学を道德授業だけでなく、特別活動（ピースフルスクールプログラム）や各教科にも関連づけ応用していった点が挙げられる。特に、道德科と音楽科を関連付けて総合的に道德性を育成した点が評価される。

第三に、学校教育の実践への貢献としては、学校現場で実際に活用できるレベルでデューイ教育哲学に基づく道德科の問題解決的な学習の指導法と評価を開発・実践した点、及び学校の教育活動全体を通して行う総合的な道德教育プログラムを具体的に開発・実践した点、さらにその研究成果を広く公開して学校現場に役立てている点にある。

3. 審査結果

以上により、本審査委員会は萩野奈幹の提出した学位論文が博士（学校教育学）の学位を授与するにふさわしい内容であると判断し、全員一致で合格と判定した。